

やまもと ほうすい

山本芳翠 ～ 郷土が生んだ偉大な画人 ～

山本芳翠（明智町出身）は、日本洋画の先駆者の一人に数えられる著名な画家です。洋画界では最も早い時期にフランスに滞在し、洋画（油彩）や舞台装飾について学びました。

開館5周年記念として中山道広重美術館が開催する企画展「山本芳翠 郷土が生んだ偉大な画人」（最終～参照）では、主に代表作「浦島図」、「裸婦」など、岐阜県美術館が収蔵、受託する作品を紹介するとともに、恵那市が所蔵し、（財）日本大正村が保管する作品

も紹介します。

郷土ゆかりの作家を取り上げる展覧会は、市民の皆さんが芳翠の功績とその作品に関心を寄せ、誇りを持って語れるようになることを願い、山本芳翠顕彰会と共同で企画したものです。

中山道広重美術館開館5周年の記念と併せ、この展覧会の期間中、本紙刷り込みの観覧無料券をご持参の市民は、無料で観覧いただくことにしました。

問い合わせ 中山道広重美術館
☎ 20 0522



山本芳翠（1850～1906）
「山本芳翠の世界展図録」朝日新聞名古屋本社発行（1993）から転写

郷土に伝わっていた芳翠像は、生家に残る「灯を持つ乙女」（写真）を描いた画家、フランスへ密航し日本人で最初に油絵を描いた、酒好きだった、などでしたが、岐阜県美術館の開館（昭和57（1982）年）によって偉大な画家として改めて姿を現しました。

【画家を志す】

現在の明智町野志で農家の長男として生まれた為之助（後に芳翠）は葛飾北斎の「北斎漫画」に感銘を受け、慶応元（1865）年、15才で画家を志し、京都へ出て南画を習っていました。

明治元（1868）年、横浜で見た西洋画から受けた鮮烈な印象により、すぐに西洋画への転向を決め、洋風画家五姓田芳柳（ごせいだほうりゅう）に入門、「芳翠」の号を与えられました。

明治9（1876）年には、山県有朋の北海道視察に同行する有力な洋画家の一人となっており、新設された工部美術学校に入学した翌明治10年には、第1回勸業博覧会に出品した「勾当内侍月詠図」で花紋章を受賞しています。

【近代日本洋画の発展を】

明治11（1878）年、パリで開かれた万国博覧会に、松方正義総裁の事務局長として随行した芳翠は、閉会後もパリに残り、パリ美術学校の教授ジャン・レオン・ジェロームに師事しました。

芳翠が最初に模写した「天女」は、三日月を弓にして天空をめぐけ矢を放とうとする図で、絵画芸術という無限の世界に向かって一直線に進むという決意を表しています。この模写作品は、渡仏にあたって世話になった岸田吟香に送っています。

山本芳翠顕彰会の活動

三菱重工業長崎造船所の占勝閣は、皇族が宿泊される立派な建物ですが、各部屋に芳翠の絵「十二支」が飾ってあります。日本で最初にカラーライスをメニューに載せたことで有名な東京上野の精養軒には、芳翠の大作「秋の奥日光」があり、訪れる人々が一様に感嘆の眼で鑑賞しています。

このほかにも、宮内庁・東京芸術大学、岐阜県美術館・国や各県の美術館博物館などには、芳翠の代表的な作品が多く所蔵されています。

山本芳翠顕彰会は、これまでこれらの作品を鑑賞する機会を設け、会員の親睦を図ってきました。また岐阜県美術館の企画展に参加したり、赤穂義士で知られる泉岳寺にある芳翠の墓所を詣でたりして、活動の幅を広げました。

今後このような活動を通してこの会を発展させ、将来は、芳翠記念館や資料館をつくるという大きな夢を抱いています。

皆様の顕彰会へのご入会を心からお待ちしています。

問い合わせ 山本芳翠顕彰会事務局（日本大正村役場内） 成瀬 ☎ 54 3944

明治20（1887）年に帰国した芳翠は制作、画塾生巧館の設立、明治美術会、白馬会の結成、報道画家としての活動、芸術的な舞台背景画制作などに新しい試みを取り入れ、画家の渡欧資金調達手段として「仏家博物館構想」のために奔走し、常に洋画界の未来を展望した活動をしました。

（山本芳翠顕彰会）

【人材の発掘と育成に尽力】

芳翠は、農学のため留学していた「合田清」を木版画家に転進させ、帰国後も彼とともに報道画、小学読本の挿絵を担当しています。また法律研究のため渡仏した黒田清輝にも画家への転進を勧め、帰国後、反対する黒田家の許しを取り付け、ラファエル・コランに学ばせたといわれています。

明治19（1886）年、帰国を前にフランスで制作した作品数十点を、新造の日本海軍巡洋艦「敵傍」に乗せ日本へ送りましたが、艦が行方不明となり、フランス滞在中の作品は、一部を残して消失してしまいました。



「裸婦」1880（明治13）年ころ油彩・額装（岐阜県美術館所蔵）日本人が描いた最初の油彩画「裸婦」

「灯を持つ乙女」1892（明治25）年ころ（岐阜県美術館寄託）明智町の生家に贈られた作品



黒田清輝 = 1886年、芳翠、藤雅三の勧めで画家を志す。明快な色調から紫派と呼ばれた。 生巧館 = フランス風洋画塾。芳翠の画学校と合田清の版画部からなり、後に黒田により「天真道場」として引き継がれた。 報道画家 = 新聞社の依頼で会津磐梯山大爆発を合田と組み版画で報道したほか、従軍画家として日清、日露戦争戦役を描いた。

南画 = 日本の文人画で中国の南宋画に由来するもので、当時の主流。 五姓田芳柳 = 芳翠の最初の洋風画の師。歌川国芳に師事し、後に独自の洋風画法を開拓し横濱絵として外国人に人気を得た。 山県有朋 = 明治大正期の軍人、政治家。 ジャン・レオン・ジェローム = フランスの画家、彫刻家。 岸田吟香 = 本名、銀次。明治期の事業家、ジャーナリストで芳翠の渡仏に尽力。 広報えな 2